

中間貯蔵施設・双葉町で 見学会を開催しました

概要

目的：いわき地区の各小中高へ通学する児童・生徒の保護者や教員を対象に、中間貯蔵施設の見学を通じて除去土壌の処理や貯蔵、再生利用について学び、双葉町に進出した企業の見学や車窓見学を通じて町の復興の様子を見てもらうと共に、意見交換を行うことで復興の現状について理解を深め、放射線不安の低減に繋げる。

開催日時：令和6年2月3日（土）8:15～16:10

開催場所：中間貯蔵施設、フタバスーパーゼロミル（浅野燃系）、双葉駅周辺

参加者：いわき地区の小中高へ通学する児童・生徒の保護者、
いわき地区小中の教員 計8名

講師：笹本宣雄（原子力安全研究協会）

ファシリテーター：崎田裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）

開催内容：中間貯蔵施設では、除去土壌や除染廃棄物等が最終処分するまでの間、安全に管理・保管されていることを学び、貯蔵が完了した土壌貯蔵施設上部で実際に測定器を使って空間線量率の測定を行った。その後、浅野燃系の見学や意見交換を行い、最後に双葉駅周辺の様子をバスの車窓から見学した。



主な意見交換

- Q** 中間貯蔵施設を見学中に、施設担当者にはここはもともとどのような土地だったのかを聞いたところ、ほとんどが田んぼという回答でとても驚いた。今後、中間貯蔵施設ではなくなったときにどのように使われていくのか、また田んぼとして利用できるのかが気になった。
- A** 放射線による農業への影響は研究や実証実験が進んでおり、放射性セシウムの挙動は把握できているため、安全性については心配ないと言える。後継者不足の問題の方が大きいと考えられる。
- 実際に足を運んで良かった。平成26年の時点で、中間貯蔵開始後30年以内に県外で処分ということだったが、県外に運んだ後、中間貯蔵施設の場所はどうなるのか。自身で知識を付けて長い目で見ていきたいと感じた。また、見学したことで家庭でも話したいと思った。
- 中間貯蔵施設見学と中間貯蔵施設から福島第一原発を見たことで、テレビで見ていたものが現実であったと実感が生まれた。最終的に県外で処分することは決定しているが、処分先も未定の状態で、今後20年で答えが出るのか。

アンケートより

- 今日は若干の不安を抱えながらの参加であったが、一歩踏み出し、参加して本当に良かった。
- 一日では足りないほど、充実した見学会であった。ぜひ他の人にも伝えて参加を促したい。

開催の様子



中間貯蔵施設見学の様子



意見交換の様子